



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はじめに
Author(s)	松本, 秀人; Matsumoto, Hideto
Relation	観光と図書館の融合 = The fusion of tourism and libraries
Citation	CATS 叢書, 5, i-iii
Issue Date	2010-07-01
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/43216">https://hdl.handle.net/2115/43216</a>
Rights	© 2010 松本秀人
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/">https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/</a>
Type	other
File Information	CATS05_001.pdf



## はじめに

本書は、著者の北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院における「観光と図書館の融合の可能性についての考察」(2009年度観光創造専攻修士論文)をベースにしつつ、その後の論考などを追加してまとめたものである。

本書は大きく「第Ⅰ部」と「第Ⅱ部」で構成されており、各部の概要は以下のとおりである。

### ●第Ⅰ部

#### ー本論：観光と図書館の融合について

修士論文の本論に加筆などを行った。

#### ー付属資料1：参考事例リスト

観光と図書館の融合を考える際に、参考となる事例をまとめた。

#### ー付属資料2：「観光と図書館に関するアンケート」調査結果

「観光と図書館」というテーマで、北海道内を中心に、全国約200館の公共図書館に対してアンケートを実施した。その結果やコメントなどをまとめた。

#### ー付属資料3：「観光に関連した活動に意欲的な図書館への追加アンケート」調査結果

特に観光への取り組みが顕著な図書館に対して、追加アンケートを実施した。その結果やコメントなどをまとめた。

### ●第Ⅱ部

#### ー実践のためのチェックリスト

第Ⅰ部の本論を読まれた方が、その内容を実践活動に役立てる際に参考となるように、検討すべき項目などをまとめたチェックリストを用意した。本論の「第3章 融合の可能性についての具体的考察」などをふまえ、「図書館が観光を意識した活動を行っていく際に、どういう点に留意すべきか、あるいはどういう可能性が存在するか」などを箇条書きにしてまとめた。リストの作成にあたっては、本論で述べていない項目なども、思いつく範囲で適宜追加した。

さらに、融合の理想的なイメージや地域の状況との関係などについても簡単な考察を行った。

#### ー「図書館ガイドブック」的な文献のリスト

特徴を持った図書館を知ることは、観光との融合という観点からみて重要であるし、知的好奇心を刺激されるという点でも興味深い。しかし実際にはなかなか情報の得にくい分野でもある。そこ

で、「図書館ガイドブック」的な内容、あるいは「図書館訪問記」的な内容をもつ文献などをリストアップした。

## 一 図書館の「新たな役割」と「観光創造」との関連性について

筆者が大学院生として所属していた北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院の「観光創造専攻」は、全国の観光系大学や大学院と比しても、独自の教育理念を持っている。本研究が示す図書館の新たな役割と、この北大観光創造の教育理念との関連性について、エッセイ風にまとめた。

以上のように、第Ⅰ部は論文と付属資料でまとめられており、第Ⅱ部はチェックリストや文献リスト、エッセイなど多彩な内容となっている。

「educate (教育する)」の語は、「e-ducate (外に一出す)」が語源であるといわれる。つまり、「教育」とは「人の持つ可能性や能力を外に引き出す」行為であるといえる。一方、観光もまた、「地域の魅力を外に引き出す」(あるいは「訪問者によって引き出される」)ことが重要なポイントであり、このアナロジーで見れば、「教育」と「観光」は根源的に共通した要素を持っているとみなすことができる。

こんにち生涯学習への関心が高まるにつれて、様々な学習施設や学習機会への関心も高まり、観光においても「教育」や「学習」がひとつのキーワードになっている。従ってそうした傾向に対応するためには、社会教育施設の有効的な活用が改めて検討される必要がある。

社会教育施設の中で、博物館、美術館、動物園、植物園、水族館、科学館、文学館、歴史館、郷土資料館など(以下“博物館系”と呼ぶことにする)は、一般的な意味での社会教育的効果とは別に、多くの場合に集客効果も期待され、周知活動が盛んに行われたり、年間集客数が話題になったりしている。またさらには、その施設自体への集客のみならず、地域の観光振興や経済活性化にはたす役割についても、注目が集まるようになってきている。ひとことでいえば、観光者も地域も、これらの施設を「観光資源」としてとらえることに違和感がなくなってきたといえる。

しかし図書館はどうであろうか。詳しくは本論で述べるが、図書館の所蔵している資料、提供しているサービス、独自の空間(施設)、そして地域社会における「場」としての役割など、様々な点で図書館は観光と結びつきうる点があるにも関わらず、観光資源として図書館が着目されることは、これまであまりなかった。もちろん、図書館によっては観光者に対応をしたり、活動理念に地

域外への意識を含めている場合もあるが、同じ社会教育施設でありながら、観光と図書館の距離感、博物館系施設と観光のそれに比して明らかに遠いのである。

本書は、主に図書館の側に軸足を置いて、図書館が持っている能力や可能性を「観光との融合」という観点から分析し、「観光において、図書館をいかに活用するか」や「図書館が、観光を意識した活動を行うのに、どういう点に留意すべきか」などを、考察したり参考事例を挙げたりしてまとめたものである。

従って、本書を読まれた方に「確かに、観光と図書館の融合には様々な可能性があるようだ」と首肯していただくことができれば、まずは当初の狙いが達成できたといえる。そして願わくば、図書館や観光の関係者、行政担当者、地域住民などが、実践の場で本書を活用されることも期待している。

様々な要因により観光も図書館も大きく変化しつつある状況において、本書が少しでも役に立つことができれば、著者としてこれに勝る喜びはない。

2010年7月1日

松本秀人